



本資料は馬乗り袴です。乗馬用として仕立てられているため股が深く割れており、仕切りに別々の足を入れるのが特徴です。

馬乗り袴にも種類がいろいろあり女学校で教わった流儀の袴と自分の父親の穿いている袴とではヒダの付き方が違うということがあったそうです。

↑ 12. 本裁男物袴



海老茶系の色の袴は女学生だけでなく電話交換手や官庁や企業に務める女性雇員が裾の乱れを隠すために用いられました。明治35年の資料には

「女性徒の袴を穿くことはいよいよ一般の流行となりて益々其の便利と体裁の好きを感ずるにつけいまは片田舎や遠田舎までも行き渡りて…」

とあり、このタイプの袴が全国的に流行したことがわかります。

↑ 14. 女物襠有袴



男性の仕事着の下体は一年を通して股引を着用するのが一般的でした。股引は田んぼで田植えなどの作業をする際に着用し、作業をすると汚れやすいので、上衣より多く持っていなければなりません。裏地のある袴は冬の寒い時期に着用します。

↑ 15. 本裁袴股引